



## FIWA 通信「インベストラ이프」

**「日本の金融リテラシーを世界一にする」  
という大目標を FIWA と共に達成したい！  
新 FIWA 正会員紹介 中野靖之さん紹介**

寄稿：中野 靖之氏

「やすべえ」と言えば思い出すのはもちろん堀部(中山)安兵衛。高田馬場で知人が果し合いをしたときに助太刀として活躍、「十八人切り」で有名になります。この腕を買われて忠臣蔵の吉良邸討ち入りに四十七士の一員として参加。みごと本懐を遂げたことで名を挙げました。そのやすべえを名乗っているのが中野靖之さん。熱い男です！日本を良くしたいという強い想いが感じられます。堀部安兵衛のように FIWA 正会員として大活躍をしてくれることを切に願っています。(岡本) **ホームページ**

やすべえ先生のマナー話 <https://asfin.jp/asfin/>

### 取得資格

1 級ファイナンシャル・プランニング技能士(国家資格)、日本証券アナリスト協会検定会員  
プライマリープライベートバンカー、住宅ローンアドバイザー、大型二輪免許、将棋アマ初段

FIWA への想いを語った動画はこちら⇒ <https://youtu.be/7gw09er2v4w>

この度、FIWA 正会員に認定していただきました中野靖之です。「やすべえ」と呼んでいただけたら嬉しいです。私は現在、京都市を拠点として、金融教育家/金融コンサルタントとして活動しております。「京都は学生の街」とよく言われますが、私個人としましては、20 年以上前に京都大学工学部で化学を学び、この 3 月までは京都大学大学院で経営管理工学を学びました。お金や資産運用についての知識だけでなく、様々な知識・知恵、素養が問われることを肝に銘じて、日々のインプットを欠かさぬようにしています。



### 【金融教育家になるまで】

京都大学を卒業して、証券会社に就職いたしました。証券会社ではトレーダーとして、国内外の機関投資家と相対取引を通じて、流動性や即時性を提供するという業務を中心に行っておりました。「金儲け」というイメージの強いトレーダー業ですが、当時の上司が「今行う仕事が証券業の発展





## 長期投資仲間通信「インベストライフ」

に寄与しているのかを常に自問自答せよ」とアドバイスしてくれまして、仕事に対する考え方の軸が当初から持っていたような気がいたします。後に岡本さんに教えていただいた、『「はた」を「らく」にすることが「はたらく」ことである』ということが、すっかり腑に落ちたのも、そのおかげと思っています。

私が36歳になった2012年、世の中は「プロボノ」、「パラレルキャリア」といった言葉が使われだした時期だったと記憶していますが、社会貢献をしたいという気持ちが芽生え始め、「寺子屋やすべえ」という名前でボランティア活動をはじめました。当時私の住んでいた地域の子供たち(小学校高学年くらい～高校生)に英語や算数といった勉強を教えるというボランティア活動団体です。その活動を通じて、塾に行く子供たちと塾に行かない子供たちとの学力の差に驚きましたが、判官びいきの阪神タイガースファンの私は塾に行かない子供たち(=寺子屋やすべえに来てくれる子供たち)に如何に勉強の楽しさを伝えることができるかをよく考えておりました。



平日は証券会社、週末はボランティア活動というライフワークを続けておりましたが、ある日の「寺子屋やすべえ」で今後の私の人生を導いてくれる「はっとした瞬間」がありました。いつものように「寺子屋やすべえ」で子供たちに勉強を教えていたのですが、保護者の方が私のところにやってきたのです。その方は、確定拠出年金に関する質問をされました。「先生、ここの金融商品の選び方、数字の埋め方、教えてほしいんですけど・・・。」

私は、頭に雷が落ちたような衝撃を受け、それから、自問自答を繰り返しました。

「やすべえ、子供たちに勉強を教えることはもちろん大事だが、大人たちに金融に関する知識や知恵を教えることも大事なのではないか？」

「やすべえ、日本の金融リテラシーは先進国の中でも下位だ。やすべえは、そんな世の中を変えたいとは思わないのか？」

### 【金融教育家になりました】

私は、19年間と10か月やり続けた、金融商品のトレーディングを卒業し、新たに、「金融教育家」となることを決めました。「金融教育家」として活動していくことに際して、「日本の金融リテラシーを世界一にする」、「お金や資産運用に関することを楽しく分かりやすくお伝えする」という目標を立てました。前者の目標は、独力で達成できるものではないですが、皆で達成する中で、その力の一つになりたいという思いが込められています。



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

突然のジョブチェンジとなったわけですが、情熱に満ちていたせいか、日本の金融教育のマーケットが小さく成熟していないといった問題や、トレーダーとしての地位や収入を放棄するといったことは気になりませんでした。それよりも、「金融商品のトレーディングのプロフェッショナル」としてやってきたこと、「教育ボランティアの主宰」としてやってきたことが、私がこれからやろうと思っている「金融教育」の道を切り開いてくれるに違いない！とまで思っていました。(実際、道のりは厳しいです！笑)



「金融教育家」として活動をはじめから、「金融教育家」と自信を持って名乗れるための知識・知恵、素養はどんなものだろうかと考えました。国会図書館に通いつめ、「金融リテラシー」、「金融教育」と名の付く本を片っ端から読んでみたりもしました。既に広義の金融教育のフィールドで活躍している諸先輩方にヒアリングをさせていただいたりもしました。今も日々考え続けているのですが、必要な知識・知恵というのは当然ありますが、それ以上に、情熱を持って継続する力が大切と感じています。急ぎ過ぎず、怠け過ぎず、マイペースで歩みを進めております。

### 【3者が寄り添い、監視し合う健全な金融市場を目指して】

私の「金融教育家」としての目標の一つである、「日本の金融リテラシーを世界一にする」という目標を達成するためには、どうしたらよいでしょうか？私は、3者が寄り添い、監視し合う健全な金融市場を目指す必要があると思っています。ここでいう3者とは、「金融商品の供給者側」となる金融機関、「金融商品の利用者側」となる投資家、「監督官庁」である金融庁などの監督団体です。直接的に頑張るべき立場は「金融商品の利用者側」となる投資家サイドですが、金融商品にかかわる様々なチャネルそれぞれが、その目標に向かって取り組む必要があり、加えて、お互いの取り組みを相互理解することが必要ではないかと思うのです。

「金融商品の供給者側」、すなわち金融機関は、「金融商品の利用者側」、投資家に対して、情報格差を埋めず、巧みなマーケティングを利用してビジネスを推進し、利益優先主義になっていた過去を反省する必要があるでしょう。また、「セールス」行為と「アドバイザー」行為とが混同することの問題点を認識し、海外機関投資家の間で進むアンバンドリングといった情報提供サービスと執行サービスを分解して対価を定めるような仕組みを取り入れることが必要となるのではないのでしょうか。

「監督官庁」については、私のようなものが評価できるものではありませんが、ここ数年で大きく変容したように感じます。ダブルコードと言われる、スチュワードシップ・コード、コーポレートガバナンス・コードが2014年、2015年に公表、または施行されました。また、ルールベースからプリンシプルベースへ移行してきたことも挙げられます。



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

「金融商品の利用者側」は、金融リテラシーを実際に獲得していくという大きな課題を抱えています。「守られるべき存在」とは言え、無知は不利益の要因となります。金融リテラシーを向上させるためのキーとなる金融教育は、日本以外の先進国と比較すると、劣後している状況であり、義務教育で学ぶ機会も断片的で効用に乏しいと考えます。官民の様々な力を結集させて、変えていかなければいけません。また、FIWA 正会員のようなプロフェッショナルが伴走者として活躍していかなければなりません。

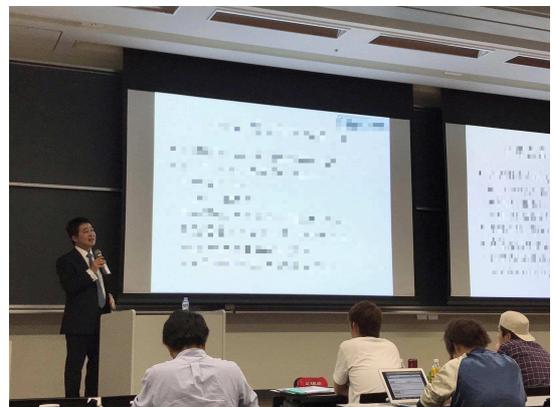
上記の問題をクリアしていくことが市場経済の健全な発展につながり、気がつけば、日本の金融リテラシーは世界一になっているのではないかと、私は想像しています。

### 【伝える！伝える！伝え続ける！】

私の「金融教育家」としてのもう一つの目標である「お金や資産運用に関することを楽しく分かりやすくお伝えする」という目標を達成するためには、どうしたら良いでしょうか？私は、ただただ伝え続けるしかないと思っています。伝え続けることで、伝える「質」、伝える「量」、両面に効果があることを実感しています。

私が金融教育家として活動をはじめた 2018 年、4 月 18 日に初めてのセミナーを開催させていただいたのですが、その時、来てくださった 3 名の方から数え、FIWA の正会員にさせていただいた 2020 年 7 月 7 日の時点で受講者数は 500 名を超えました。

伝える「質」においても、「1 対複数」のセミナー形式に加え、「1 対 1」の金融コンサルティング形式を行ったり、2020 年 3 月からと最近ですが、YouTube での「動画配信」をスタートさせるなど、伝え続けることで多様化を図ることとなりました。



「伝える！伝える！伝え続ける！」をスローガンとして、情熱を持って、お金のこと、資産運用に関することを、正しく、より多くの方に、伝え続けていきたいと思えます。

最後になりますが、このような駄文を最後までお読みくださりまして、ありがとうございました。ぜひ、みんなの力で日本の金融リテラシーを世界一にしていきたいと思います！！